

子ども通院費助成、小学校卒業までに拡大 上越市の新年度予算、一般会計は過去最大規模に

村山市長は21日、上越市の新年度予算案を発表しました。新年度予算案は一般会計、国民健康保険特別会計など17会計です。

このうち、新年度一般会計予算は前年度当初予算と比べて2・6%増の1110億6648万円で、過去最大の規模となりました。

予算編成にあたって市は、①基礎的で普遍的な行政サービスの安定的な提供を継続する、②第5次総合計画及び市長公約に基づく重点施策・事業を着実に推進する、③事務事業の総ざらい及び政策協議の結果を予算への確に反映させる、などを編成の基本方針にしました。

発表された予算案の中身を見ると、市民の運動や議会での働きかけが実を結び、子ども通院費の助成を小学校卒業まで拡大されたほか、中山間地対策としてモデル的に取り組まれてきた集落支援員を7人に増員、小中学校の介護員、補助員も増員されました。好評の住宅リフォーム促進事業費は1億円盛り込まれました。

また、昨年取り組んだ事務事業の総ざらいの最終評価結果、政策協議などを反映させ、母子及び父子福祉金支給、骨密度検診、「のびやか」広場など109事業の廃止または見直しを行いました。

注目の新幹線関連予算ですが、新幹線新駅地区土地整理事業で15億6889万円（前年当初より4億6074万円増）、信越本線移設事業で4億1828万円（同2億3565万円増）が計上されたほか、新たに新幹線

まちづくり推進連携事業で950万円、新幹線駅周辺地区まちなみアドバイザー委託事業で200万円が計上されました。

ケーブルテレビ見直しで地区懇談会

吉川区総合事務所は、19日、20日と市直営ケーブルテレビ事業の見直しをテーマに地区別懇談会を開催しました。今回は総合事務所の幹部、担当職員のほか、木田庁舎の文書法務課から小菅課長、石田係長が参加しました。

市直営ケーブルテレビ事業については、吉川区、三和区、安塚区で行われていますが、平成27年度からの運営見通しが立たず、地域協議会などで勉強会や検討会が行われてきました。そして

昨年は、事務事業の総ざらいの中で見直し方針が打ち出されました。具体的には、「施設や運営を民間に譲渡し、廃止する。今後、民間の譲渡先を検討するとともに、住民の理解を得られるよう、譲渡した場合のサービスや負担などの条件を整備する」としています。懇談会では小菅課長が、こうした見直しの必要性などについて概要を説明、総合事務所の担当グループ長がさらに詳しい説明を行いました。

懇談会の場では、「ケーブルテレビの運営が赤字になっていないことを初めて知った。これまでなんで教えてくれなかったのか」「いまはメガの時代ではなくギガの時代だ。総務省は全国に光の100メガを2025年までに広げる構想を10年早めたというニュースも聞いた。もっと先を見て対応を考えてほしい」などの質問や意見が出されました。

総合事務所や文書法務課では、今後この問題で懇談会を開いていきたいとしています。



泉谷会場。20日撮影

3月定例議会の日程 会議開始時間はいずれも午前10時からです。ぜひ傍聴にお出かけください。

月日	会議名	会議室名	備考
3月 1日	本会議	議場	議案提案、総括質疑等
3月 2日	本会議	議場	総括質疑
3月 3日	厚生常任委員会	第1委員会室	平良木議員
3月 4日	〃	〃	〃
3月 7日	建設企業常任委員会	〃	樋口議員
3月 8日	〃	〃	〃
3月 9日	文教経済委員会	〃	上野議員
3月10日	〃	〃	〃
3月11日	総務常任委員会	〃	橋爪
3月14日	〃	〃	〃
3月16日	一般質問	議場	
3月17日	〃	〃	
3月18日	〃	〃	
3月22日	〃	〃	
3月23日	〃	〃	
3月25日	本会議	議場	討論、採決等

春よ来い

第一四二回 凍み渡り

ザツ、ザツともグツ、グツとも聞こえる。凍みた雪の上を歩くときの音です。この冬はもう三回ほど凍み渡りをしました。一回に歩く時間はわずか一五分ほどですが、毎回新たな出会いや発見があり、とても楽しい思いをしています。

いつも歩き始めは、牛舎脇の舗装された道路からぴよんと雪の上に跳び上がります。雪の固さを確かめるのはほんの数歩だけ、あとはどんどん歩きます。歩くたびに長靴がザツ、ザツ、グツ、グツという音をたてます。気持ちがいいから踵（かかと）に力を入れて音が大きくなるようにして歩きます。

朝の六時半過ぎ、空にはまだ月の姿がはっきりと見えます。薄青い空が広がっていて、そこに白い月がある。こういう日の朝は決まって雪がしっかりと固くなっていきます。自動シャッターを使って自分の姿を撮影しようとしてカメラを雪の上に置いた時、雪の表面を見てびっくりしました。雪の小さな粒がきれいに広がっているではありませんか。ヒザをついたら、その粒々がズボンにくっついて離れません。

牧草地だったところから畑へと、どんどん進むと近くの雑木林から、「タタタッ、タタタッ」という音が聞こえてきました。キツツキです。縄張りを主張しているのでしょうか、それとも求愛行動でしょうか。いずれにしてもキツツキの音はよく響きます。

畑の中に数本ある桑の木は全体がうっすらと白くなっています。杉林に目を転じると、これもまた白くなっているところがあります。みんな冷気に包まれて凍っているのです。このひんやりしたなかを歩くわけですから、手はびりびりするし、頬も痛い。耳も痛くなります。手袋を忘れてしまった時には、盛んに手をさするかアノラックのポケットに手を入れないと、冷たさにはまんがでなくなりません。

七時近くになると、歩く雪原では素晴らしいことが起こります。東の方角から登る朝日が大地を照らし始め、雪原がキラキラと輝くのです。その光景は、雪の上のあちこちでダイヤモンドが輝いている、そう言ってもいいくらい実に見事です。だから、私はこの時間帯の凍み渡りが大好きです。

雪がキラキラしはじめてからは、歩くテンポも変わります。小さな木のそばでぐるぐる廻るようにして歩く。窪地に下りる。ちよつとした高台に駆け上がる。もう気分は最高です。そして、面白いのは人間の影。ものすごく足の長い、もうひとりの私が雪の上を歩きまわるのです。

私が凍み渡りをする場所の近くには吉川が流れています。昨年の秋に河川改修が行われて、新しい堤防もできました。ここも凍み渡りの楽しいポイントのひとつです。先日、堤防を駆け上がった瞬間、バタバタという音がしました。川面で休んでいた鳥たちが私の駆け上がる足音に驚いて、次々と飛び立ったのです。この鳥はおそらくカモでしょう。

雪さえあればどこへでも歩いて行かれます。凍み渡りの何よりの快感です。今冬の凍み渡りの三回目では隣集落の田んぼへも出かけてみました。ここでは水の音がとても気に入りました。田んぼの暗渠（あんきよ）のパイプから水路に流れ落ちる「ジョーッ」という水の音がなぜか懐かしさを伴って心に響くのです。

凍み渡りが出来る頃の水は雪解けの水。雪解けの音は、言うまでもなく春を告げる音でもあります。春はもうすぐです。

続事業を認めてほしい」「高齢者の医療機関への送迎サービス事業は、地域活動支援事業として継続していくのではなく、1～2年の活動状況を見たうえで、市として制度化した事業としてほしい」など4項目でした。これらは今後、市議会課題調整会議、政策形成会議で検討されていくこととなります。市議会の頑張りどきです。

内山委員長はまた、「市民と議会の意見交換会」について市民から寄せられた声についても報告しました。「内容がわかりづらい」「身近な問題をきさくに語れる場にしてほしい」「発言者が特定の人に限定されている」といった内容が主なものです。こうした声を参考にして意見交換会の運営をどう改善していくか検討する必要があります。

「防災無線が聞こえない」との訴えも

吉川区で行われた地区別懇談会ではケーブルテレビ事業以外でも質問、要望が出されました。

そのなかで一番多かったのは防災無線です。吉川区19か所で設置されているものの、「よく聞こえない」という声が相次ぎました。総合事務所側は、「風向きだとか気象条件によって聞こえないことがある。有線の告知端末で、5月半ば頃には各家庭にも同じものを流すよう準備している」と答えていました。

※私が総括質疑で登壇するのは2日午前の予定です。



もっときさくに語れる場に

議会基本条例制定後初めて実施した「市民と議会の意見交換会」について内山米六広報広聴委員長が21日の議員懇談会で報告しました。

今回の「市民と議会の意見交換会」は地域活動支援事業をメインテーマにして2月14日、15日の両日、公民館高志分館など3会場で行われました。出席した市民は合計で33人と少なかつたものの、出された意見は貴重なものでした。

「主な意見」として報告された意見は、「単年度事業となっているが、地域としては4年間を通じて事業を行うことで効果を出していきたいと考えている。継